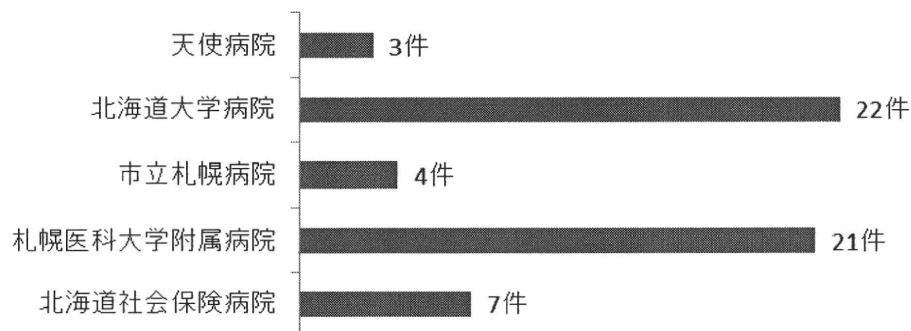


搬送件数を図2に示す。優先回数同様、市立札幌病院と北海道社会保険病院が搬送件数全体の7割を超えている。

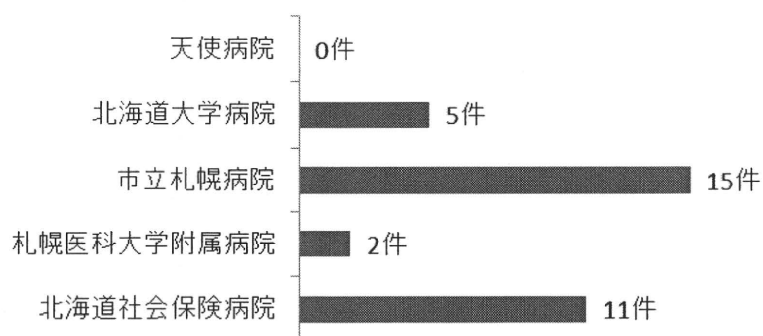
図2 三次救急病院の搬送件数

21年度



N=57

22年度



N=33

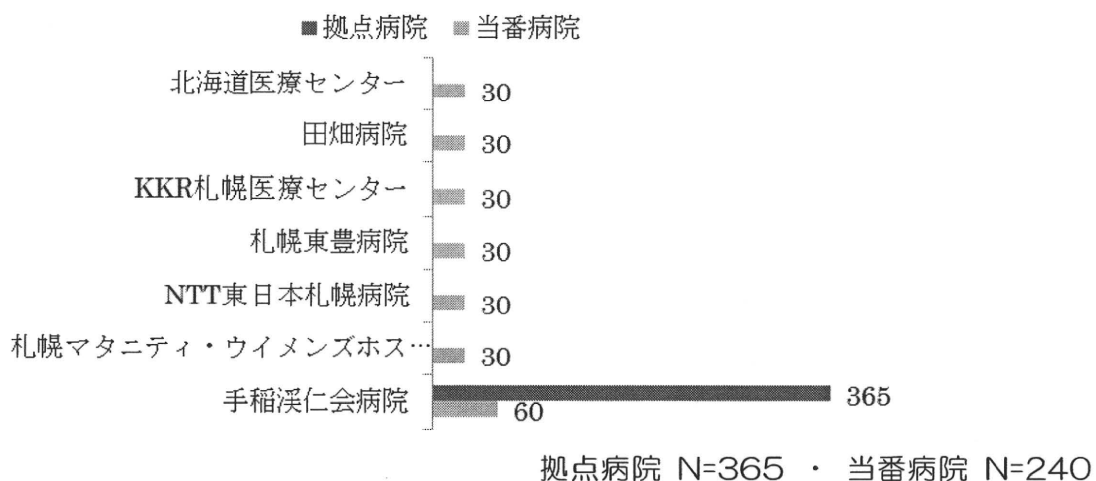
又、北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院の3機関については救命救急部を併設しており、高度医療が必要な場合（脳外科疾患、ICU管理が必要など）、救命救急に関わる場合はその3機関で受け入れを行っている。

(2) 二次救急病院の指定状況について

二次救急病院の指定状況に関しては、図3で示したように、拠点病院として手稲溪人会病院が毎日担当し、日替わりで当番病院が担当している。当番病院は毎日あるわけではなく、当番病院がある日は、当番病院を優先して搬送する。搬送件数は、図4に示したように、毎日、拠点病院を担当する手稲溪人会病院が圧倒的に多く、当番病院は10件程度となっている。(田畑病院に関しては10月以降当番となっていない)

図3 二次救急病院の当番回数

21年度



22年度

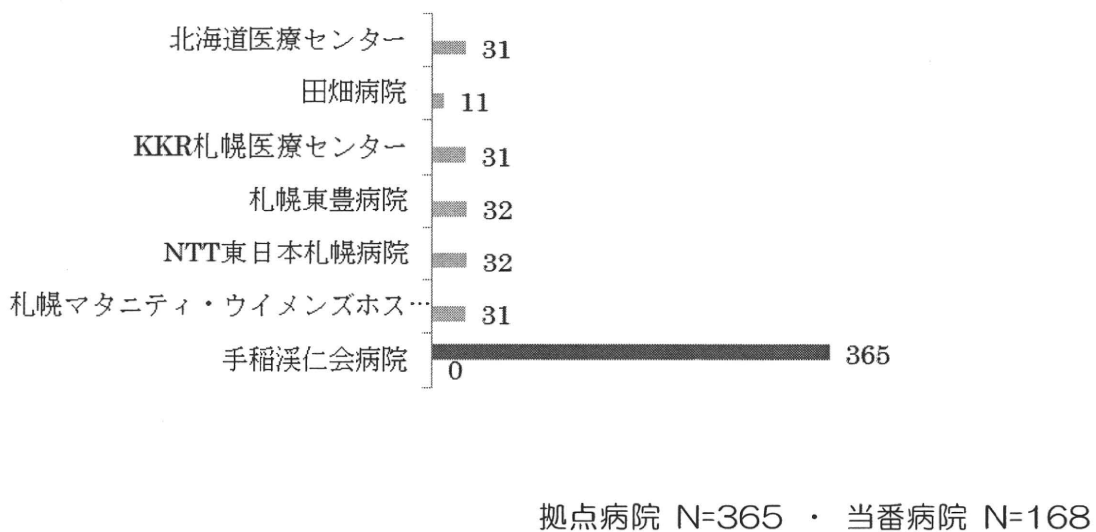
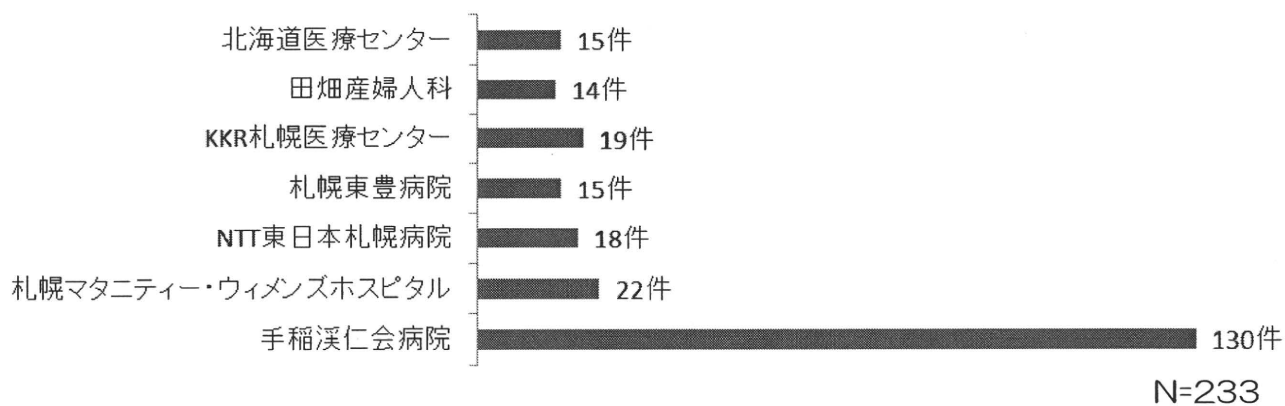
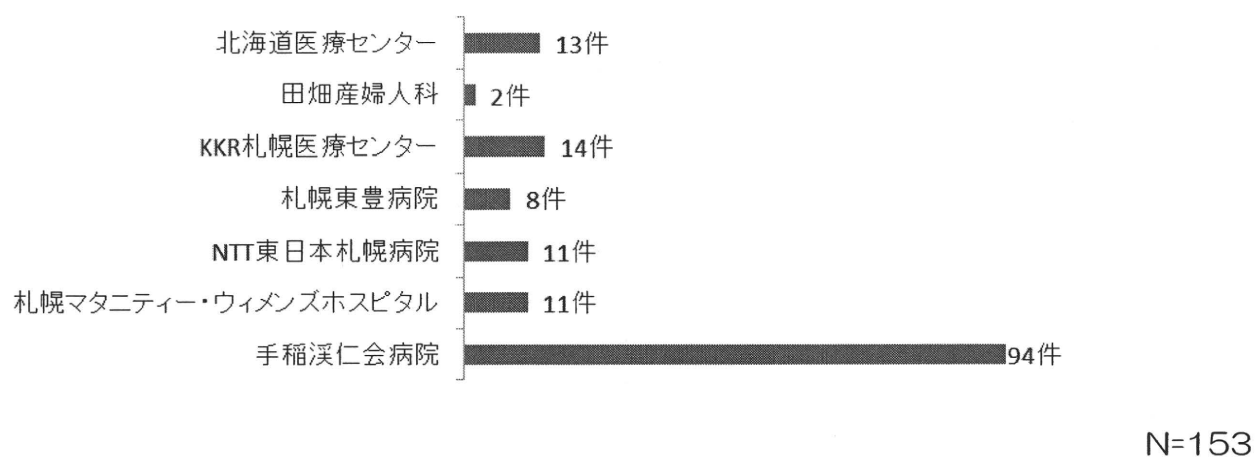


図4 二次医療機関の搬送件数

21年度



22年度



2 未受診妊婦の受入れ病院指定状況について

調査機関： 平成22年4月1日～平成23年3月31日（365日間）

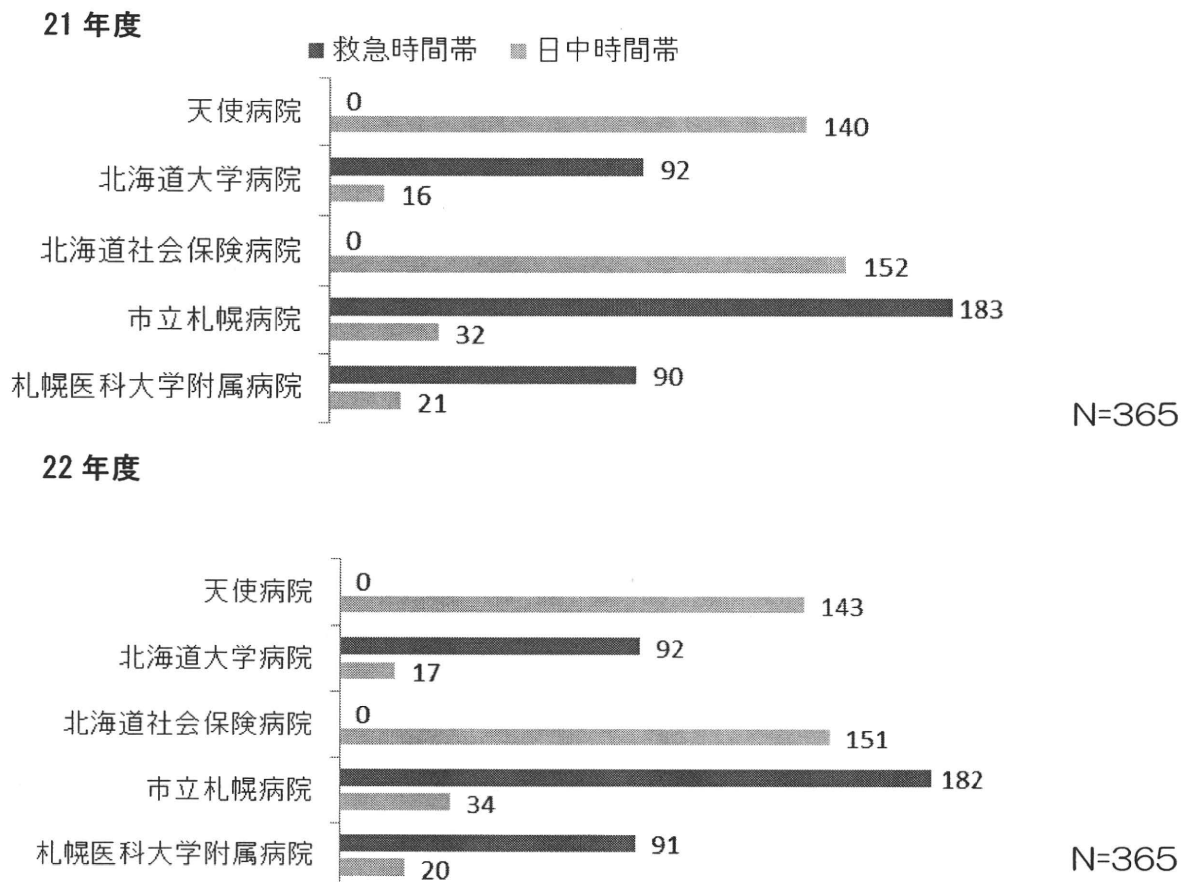
上記調査期間において、札幌市産婦人科救急の未受診妊婦の受入れ病院の指定状況を報告する。

未受診妊婦の受入れ病院は、妊娠週数に応じて二次救急病院と三次救急病院がそれぞれ担当している。このうち、妊娠週数が24週～36週未満の場合は、NICUの対応を必要とする為、三次救急病院が担当している。

未受診妊婦の週数が不明な場合も、緊急対応を考えて三次救急病院が当番対応を行っている。未受診当番に関してはあらかじめ、当番の日程が決まっており、天使病院・北海道社会保険病院は主に日中の未受診妊婦に対応し、休日・夜間の緊急時間は、北海道大学病院・市立札幌病院・札幌医科大学付属病院が対応している。

図5に各病院の当番回数を示す。

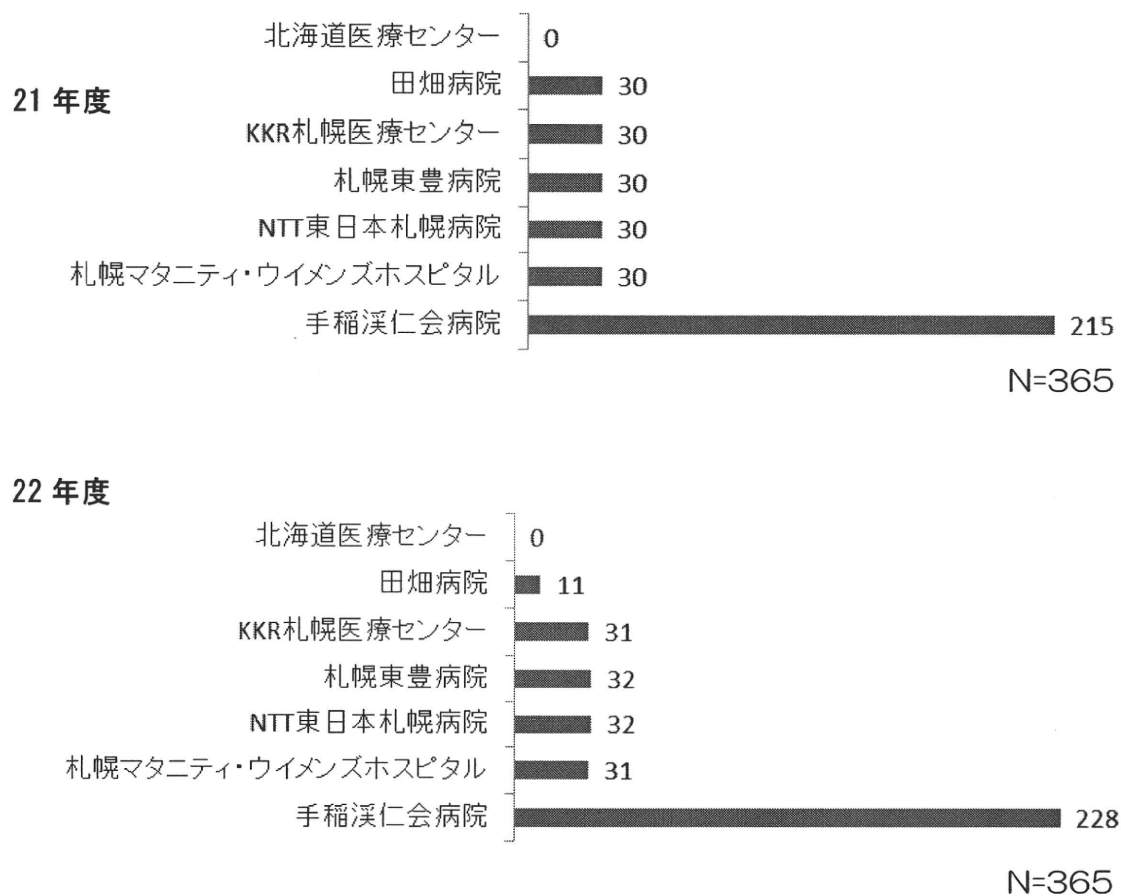
図5 妊娠24週以上～36週未満及び妊娠週数不明の未受診妊婦当番回数



また、妊娠24週未満及び妊娠36週以降の未受診妊婦に関しては、二次救急病院が担当している。図6は、緊急時間における各病院の当番回数を示しているが、日中に関してはこの二次

救急病院を候補として選定している。(田畑病院に関しては10月以降当番となっていない)

図6 妊娠24週未満及び妊娠36週以降の未受診妊婦当番回数



3 北海道救急医療システムベッド状況について

調査機関：平成22年4月1日～平成23年3月31日（365日間）

上記調査期間において、北海道35施設の週産期医療機関の受入れ状況を報告する。

表5 北海道救急医療システムベッド情報実績

	受入機関名	診療科		合計				
				○	△	×		
道 南	南渡島	函館中央病院	新生児科	重症児受入	365	0	0	
				軽症児受入	365	0	0	
			産科	緊急母体搬送	0	365	0	
		市立函館病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
				軽症児受入	0	0	365	
			産科	緊急母体搬送	0	0	365	
	南檜山	北海道立江差病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
				軽症児受入	0	0	365	
		産科	緊急母体搬送	0	0	365		
			緊急母体搬送	0	0	365		
	北渡島檜山	八雲総合病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
				軽症児受入	365	0	0	
産科		緊急母体搬送	365	0	0			
		緊急母体搬送	365	0	0			
道 北	上川中部	旭川厚生病院	新生児科	重症児受入	323	42	0	
				軽症児受入	323	42	0	
			産科	緊急母体搬送	329	24	12	
				緊急母体搬送	329	24	12	
			旭川医科大学病院	新生児科	重症児受入	108	166	91
					軽症児受入	111	169	85
		産科	緊急母体搬送	199	69	97		
			緊急母体搬送	199	69	97		
		旭川赤十字病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
				軽症児受入	0	0	365	
			産科	緊急母体搬送	0	0	365	
				緊急母体搬送	0	0	365	
	上川北部		名寄市立総合病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
					軽症児受入	365	0	0
		産科		緊急母体搬送	365	0	0	
		富良野	富良野協会病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
					軽症児受入	0	365	0
				産科	緊急母体搬送	0	365	0
	留萌	留萌市立病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
				軽症児受入	0	0	365	
			産科	緊急母体搬送	0	0	365	
	宗谷	市立稚内病院	新生児科	重症児受入	365	0	0	
				軽症児受入	365	0	0	
			産科	緊急母体搬送	365	0	0	
十 勝	帯広厚生病院	新生児科	重症児受入	6	88	271		
			軽症児受入	15	83	267		
		産科	緊急母体搬送	355	8	2		
	帯広協会病院	新生児科	重症児受入	0	0	365		
			軽症児受入	0	365	0		
		産科	緊急母体搬送	0	365	0		

	受入機関名	診療科		合計			
				○	△	×	
道 央	札幌	市立札幌病院	新生児科	重症児受入	286	52	27
				軽症児受入	287	53	25
			産科	緊急母体搬送	249	43	73
		札幌医科大学附属病院	新生児科	重症児受入	144	78	143
				軽症児受入	154	84	127
			産科	緊急母体搬送	102	56	207
				重症児受入	130	68	167
		北海道大学病院	新生児科	軽症児受入	262	19	84
				産科	緊急母体搬送	275	74
		北海道立子ども総合医療 療育センター	新生児科	重症児受入	154	131	79
				軽症児受入	155	131	78
			産科	緊急母体搬送	0	0	365
		NTT東日本札幌病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	184	62	119
			産科	緊急母体搬送	74	51	240
		天使病院	新生児科	重症児受入	44	0	321
				軽症児受入	25	1	339
			産科	緊急母体搬送	14	1	350
	北海道社会保険病院	新生児科	重症児受入	216	0	149	
			軽症児受入	219	0	146	
		産科	緊急母体搬送	223	0	142	
	手稲溪仁会病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
			軽症児受入	55	157	153	
		産科	緊急母体搬送	140	215	10	
	後志	小樽協会病院	新生児科	重症児受入	16	225	124
				軽症児受入	38	238	89
			産科	緊急母体搬送	72	255	38
	南空知	岩見沢市立総合病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	358	1	6
			産科	緊急母体搬送	365	0	0
	中空知	滝川市立病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	0	0	365
			産科	緊急母体搬送	0	0	365
		砂川市立病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	0	365	0
			産科	緊急母体搬送	365	0	0
	北空知	深川市立病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	365	0	0
			産科	緊急母体搬送	0	365	0
	西胆振	日鋼記念病院	新生児科	重症児受入	0	365	0
				軽症児受入	0	365	0
			産科	緊急母体搬送	0	365	0
東胆振	王子総合病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
			軽症児受入	0	0	365	
		産科	緊急母体搬送	0	0	365	
	苫小牧市立病院	新生児科	重症児受入	0	0	365	
			軽症児受入	0	0	365	
		産科	緊急母体搬送	47	32	286	

		受入機関名	診療科		合計		
					○	△	×
オ ホ ー ツ ク	北網	総合病院 北見赤十字病院	新生児科	重症児受入	365	0	0
				軽症児受入	365	0	0
			産科	緊急母体搬送	365	0	0
		網走厚生病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	304	0	61
			産科	緊急母体搬送	365	0	0
	遠紋	北海道立紋別病院	新生児科	重症児受入	0	0	365
				軽症児受入	365	0	0
		遠軽厚生病院	新生児科	重症児受入	0	365	0
				軽症児受入	365	0	0
	産科	緊急母体搬送	365	0	0		
根 釧	釧路	総合病院 釧路赤十字病院	新生児科	重症児受入	199	154	12
				軽症児受入	218	135	12
			産科	緊急母体搬送	334	31	0
		市立釧路総合病院	新生児科	重症児受入	147	101	117
				軽症児受入	148	100	117
			産科	緊急母体搬送	154	91	120

4 今後の展望

この産婦人科救急情報オペレーター事業により、緊急な搬送対応を迅速にする効果が得られ、いわゆる「たらいまわし」の無い搬送対応が可能となった。

このような対応は、札幌市内だけではなく、二次・三次救急医療機関がない近隣の地域においても重要である。また、産婦人科救急対応が可能な病院は北海道全体でも限られていることから、全道に対応できる救急情報・搬送システムの構築が急務と考える。

一方、医師不足対策としても、この事業は不要不急の患者の搬送を抑制する効果が得られている。したがってこのような事業は周産期にとどまらず広く救命救急の分野で、今後の進歩が期待される。

【調査報告2】産婦人科に関する救急相談電話

1 相談電話の対応結果について

(1) 調査期間及び相談件数

①調査期間

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの 365 日間

②相談件数

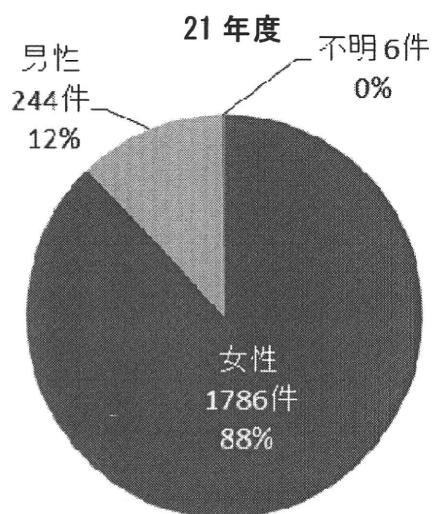
1,989 件となり、1 日当たりの平均相談件数は、1 日 5.4 件である。

(2) 相談者の性別

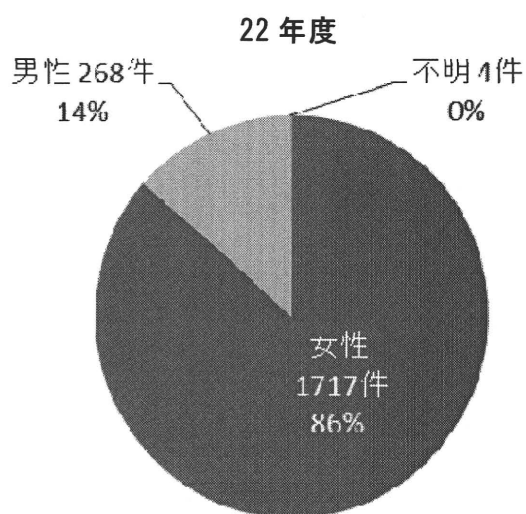
女性 1,717 件全体の 86%、男性 268 件全体の 14%、不明 4 件となっている。(図 1)

産婦人科の相談電話である為、女性の相談が中心となるが、男性の相談は、避妊の失敗によるアフターピルの相談や、妻または友人の女性のかわりに電話した等の内容である。まれに、彼女が妊娠し、どうしたらよいかなど、直接病院に相談できない内容もあり、顔の見えない相談だからこそ、気軽に電話できることが伺える。

図 1 相談者の性別



N=2036

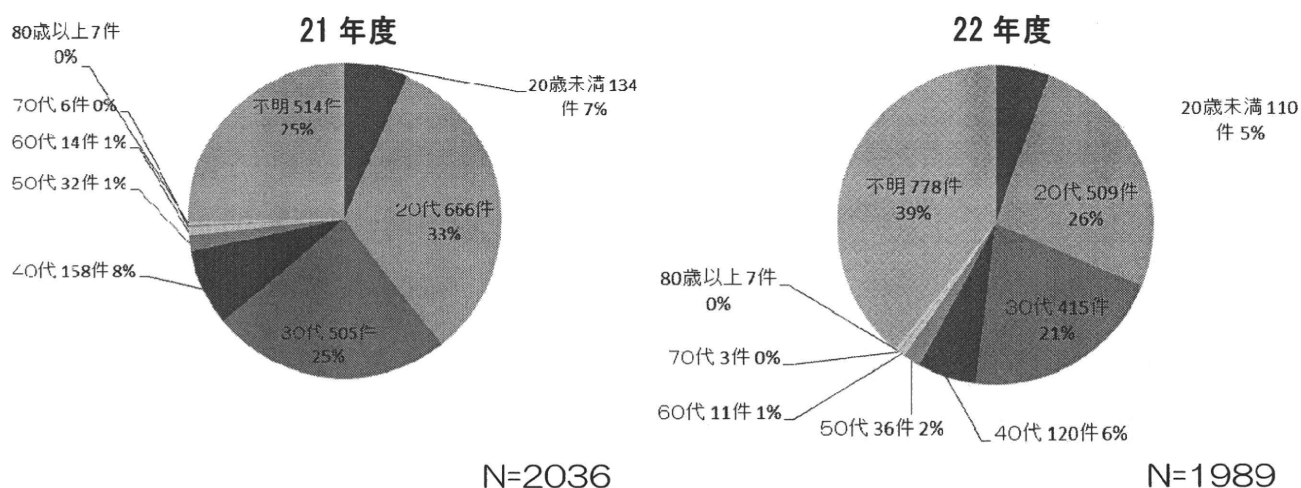


N=1989

(3) 相談者の年齢

年齢別に見ると、20歳未満の相談件数は110件で全体の5%であり、主に、妊娠・月経痛や小児の外陰部外傷が多い傾向にある。20代が509件、30代が415件と20～30代で全体の47%を占め半数以上が集中している。20～30代は半数近くが妊娠に関わるもので、妊娠以外では腹痛・腹部の異常が最も多い。40代は120件・50代は36件・60代は11件・70代は3件となっている。(図2) 40代以降は、下腹部痛や性器出血・外陰部に関する相談が多くなる傾向がある。

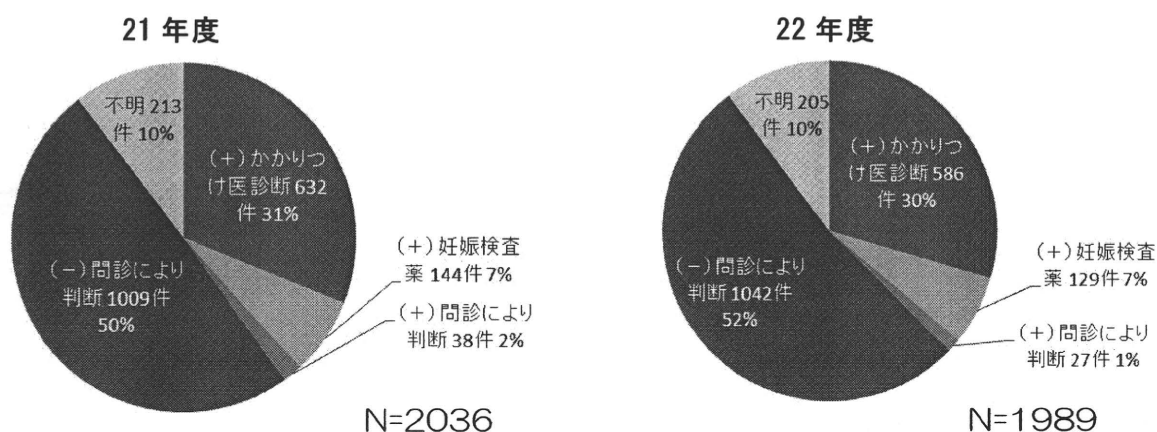
図2 相談者の年齢



(4) 妊娠の有無

妊娠に関する相談件数は、かかりつけ医において妊娠と診断された者、妊娠検査薬で自己検査を行い陽性と判断した者、電話相談結果により妊娠と判断したものを含めて38%であった。一方、妊娠していない者からの相談件数は52%であり、妊娠していない相談者からの相談件数が多かった。また、電話相談により問診しても妊娠しているか不明であるものは10%で、前年度とほとんど変わらない傾向であった(図3)

図3 妊娠の有無

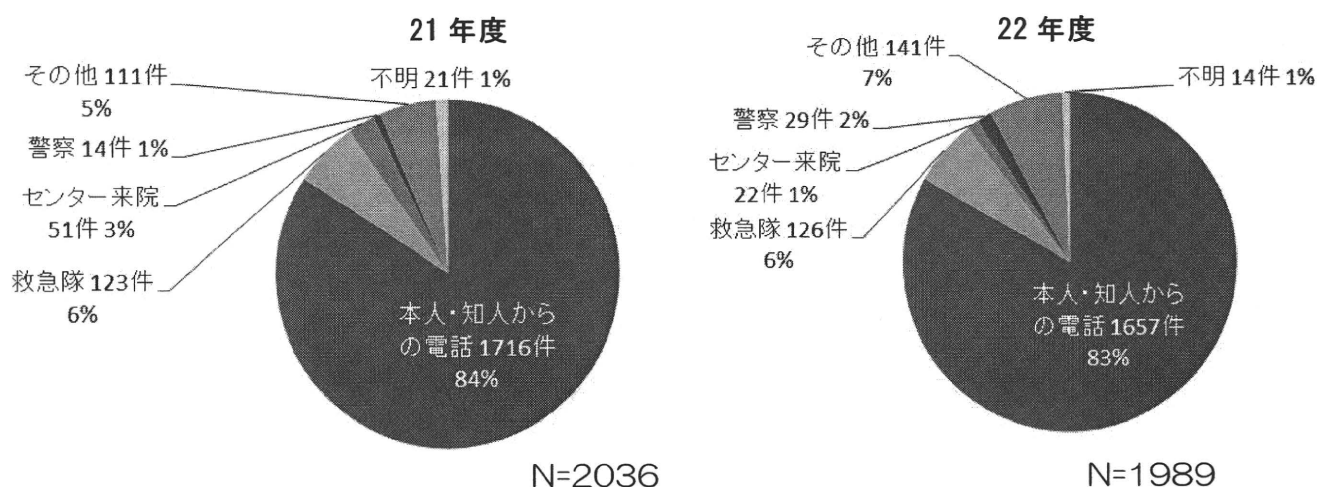


(5) 相談経路

相談経路は、本人・知人からの電話が1,657件で最も多く全体の83%、救急隊が126件で全体の6%、札幌市夜間急病センターに直接来院したものが22件で全体の1%、警察が29件と全体の2%となっている。札幌市夜間急病センター医師からの搬送依頼や夜間急病センターに産婦人科があると思っ来て院した相談者に対しては、現在の症状を伺い、その情報にもとづき、搬送対応または、翌日の診療時間内での受診を勧奨している。また、夜間急病センター来院者が昨年の半数以下となり、産婦人科はないことが周知されつつあるのではないかと推察される。

警察からの相談は強姦に対する問い合わせが主である。(図4)

図4 相談経路



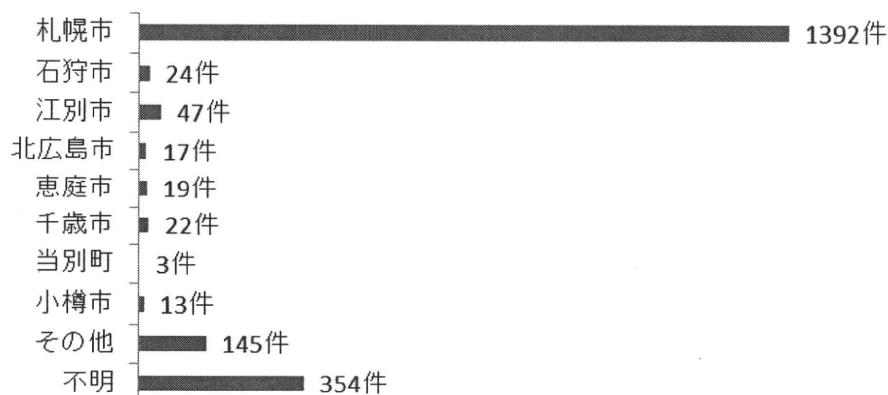
(6) 相談者の地域

相談者を地域別で見ると図5で示すとおり札幌市が主で1,341件である。図6は札幌市の相談者を区別であらわしている。図7は札幌市の区別人口の女性をあらわしている。相談は中央区の229件が一番多いが、人口数は中央区が3番目に多い。また、人口が一番多い北区は相談が3番目に多く、女性の人口数と相談件数は必ずしも比例していない。

札幌市以外の地区別詳細は、表1に示した。産婦人科の相談対応は平成21年4月より全道へと拡大している。札幌市以外の相談者が多い理由としては、全道版の新聞記事として取り上げられたことや、インターネットの検索により、全国どこでも調べることが出来るためと推測される。媒体に関する詳細は(7)で述べる。

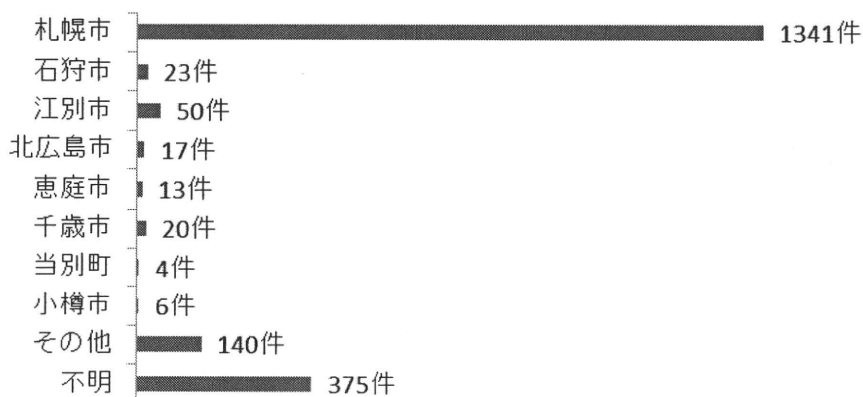
図5 相談者の住所(全体)

21年度



N=2036

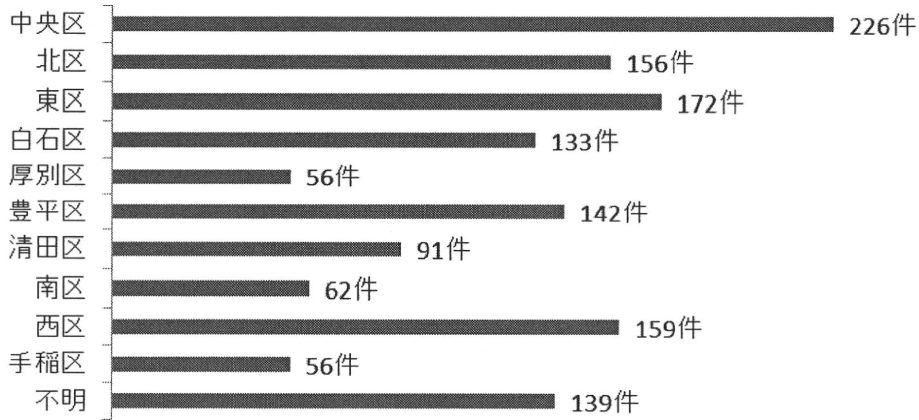
22年度



N=1989

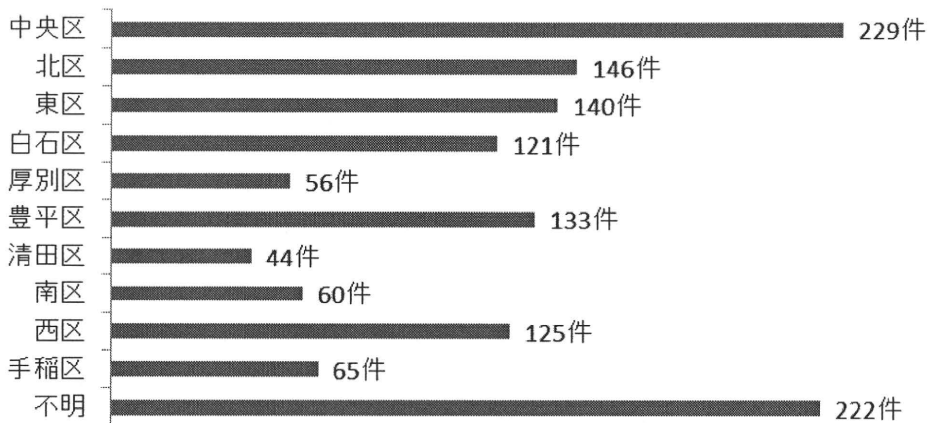
図6 相談者の住所（札幌市内）

21年度



N=1392

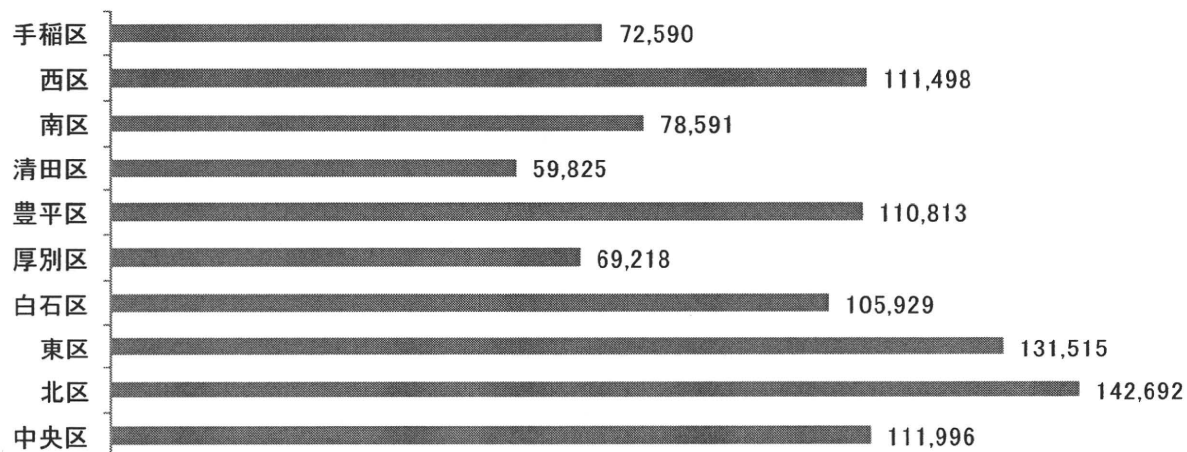
22年度



N=1341

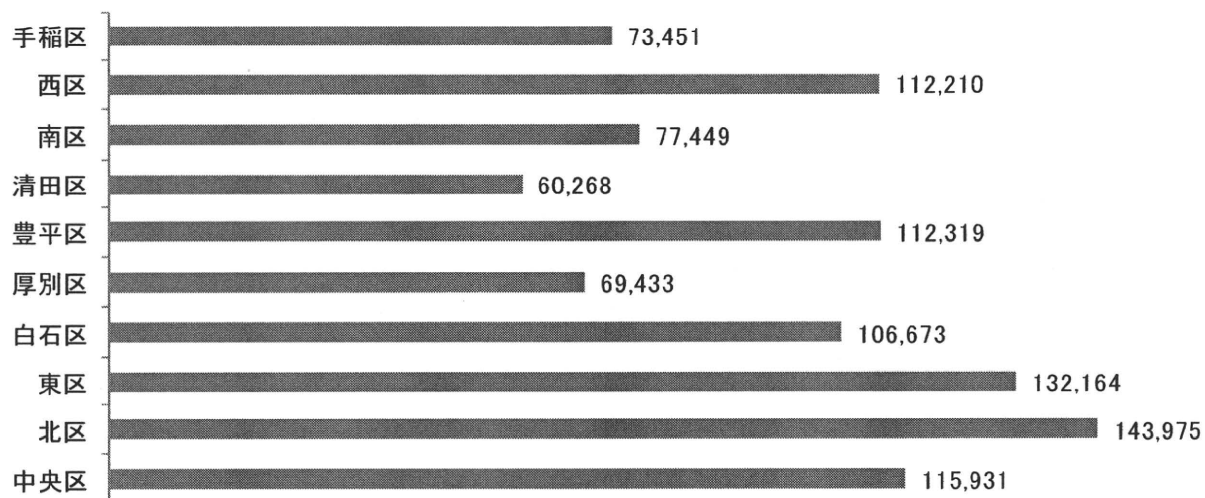
図 7 札幌市の区別人口（女性）

21年度



※札幌統計情報 平成 22 年 1 月統計 N=994,667

22年度



※札幌統計情報 平成 23 年 1 月統計 N=1,003,873

札幌市以外からの相談者は、273 件であった。地域別件数については表 1 の通りである。

表 1 相談者地域別詳細

21 年度

札幌圏 1524 件	札幌市 1392 件 石狩市 24 件、江別市 47 件、北広島市 17 件、 恵庭市 19 件、千歳市 22 件、当別町 3 件
札幌圏外 (道内) 78 件	小樽市 13 件、苫小牧市 4 件、旭川市 5 件、函館市 2 件、 滝川市 3 件、岩見沢市 4 件、帯広市 5 件、北見市 3 件、 釧路市 9 件、室蘭市 3 件、登別市 1 件、稚内市 1 件、 留萌市 1 件、歌志内市 1 件、名寄市 2 件、美唄市 1 件、 三笠市 1 件 余市郡 3 件、岩内郡 2 件、虻田郡 2 件、磯谷郡 1 件、 様似郡 1 件、中川郡 1 件、上川郡 1 件、空知郡 2 件、 広尾郡 1 件、日高郡 1 件、沙流郡 1 件、夕張郡 1 件、 勇払郡 1 件、二世郡 1 件
道外 69 件	東京都 26 件、大阪府 6 件、京都府 1 件、秋田県 1 件、 愛知県 4 件、神奈川県 7 件、香川県 1 件、岐阜県 2 件、 熊本県 1 件、埼玉県 1 件、滋賀県 1 件、静岡県 2 件、 千葉県 3 件、長野県 1 件、兵庫県 3 件、福井県 3 件、 福岡県 1 件、福島県 2 件、広島県 1 件、三重県 2 件
道外 (不明)	3 件
国外 (旅行者)	7 件
住所不定	1 件
不明	354 件

22 年度

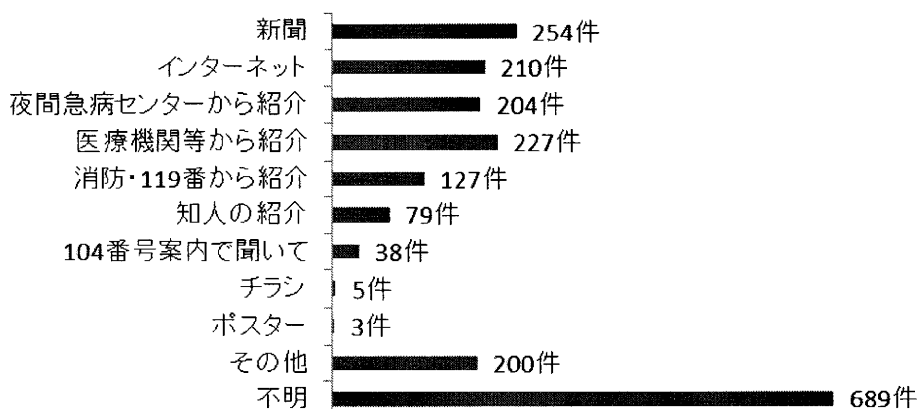
札幌圏 1476 件	札幌市 1341 件 石狩市 23 件、江別市 51 件、北広島市 17 件、 恵庭市 14 件、千歳市 24 件、当別町 6 件
札幌圏外 (道内) 73 件	小樽市 6 件、苫小牧市 6 件、旭川市 6 件、函館市 6 件、 砂川市 1 件、岩見沢市 9 件、帯広市 8 件、北見市 2 件、 釧路市 5 件、伊達市 1 件、登別市 1 件、網走市 1 件、 富良野市 1 件、歌志内市 1 件、
	余市郡 1 件、紋別郡 1 件、虻田郡 2 件、磯谷郡 1 件、 様似郡 2 件、天塩郡 1 件、上川郡 1 件、空知郡 5 件、 斜里郡 1 件、亀田郡 1 件、檜山郡 1 件、夕張郡 1 件、 勇払郡 1 件、
道外 55 件	東京都 17 件、大阪府 5 件、佐賀県 1 件、茨城県 1 件、 愛知県 1 件、神奈川県 8 件、岩手県 2 件、岐阜県 2 件、 栃木県 1 件、山口県 1 件、滋賀県 1 件、静岡県 2 件、 千葉県 5 件、長野県 1 件、兵庫県 4 件、奈良県 2 件、 福岡県 1 件、
道外 (不明)	5 件
国外 (旅行者)	5 件
住所不定	0 件
不明	373 件

(7) 電話相談の媒体

電話相談の情報は、広報さっぽろ・新聞・札幌市のホームページ・テレビ等のメディアを介して自ら容易に入手出来ることや、医療機関・消防局・救急医療情報案内センター等に連絡した際に、紹介されることによって知ることが出来る。ホームページの場合は、産婦人科の相談で検索されるため、全国から相談がきている。(図8)

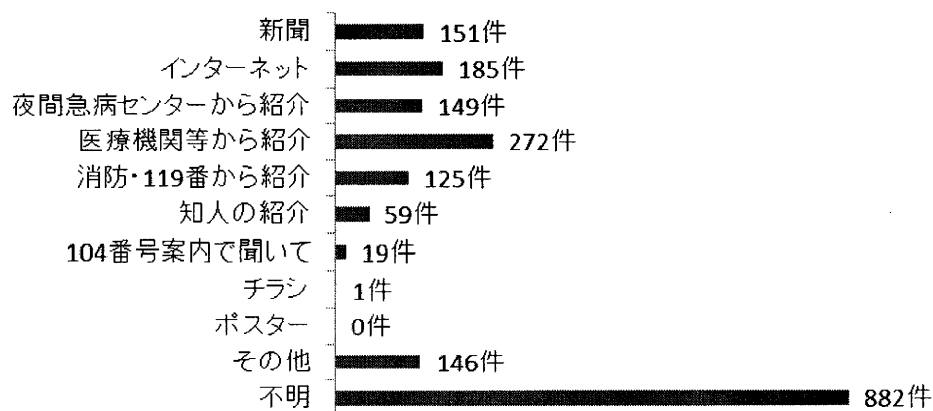
図8 電話相談を知った媒体

21年度



N=2036

22年度



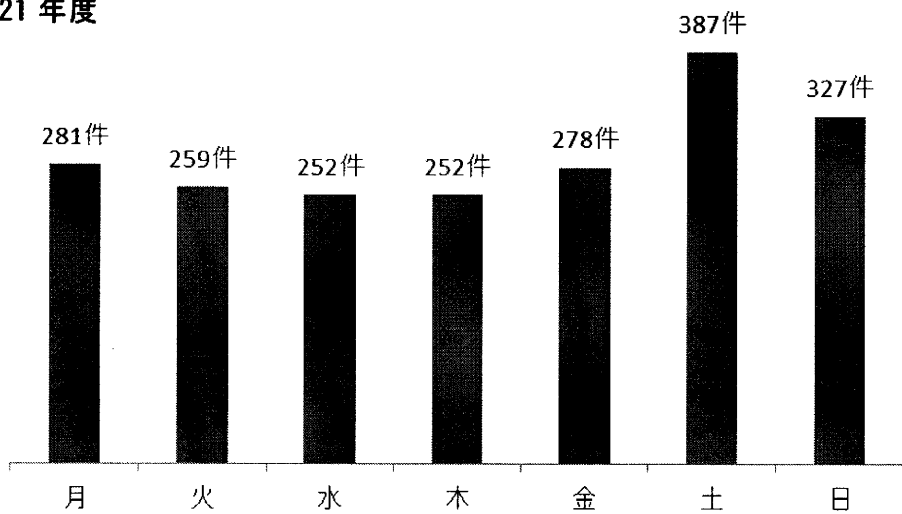
N=1989

(8) 曜日別相談件数

相談件数は土曜日・日曜日の方が多くなっている。相談電話は夜間帯に緊急性のある症状に対しての相談ではあるが、休日の産婦人科の診療情報がわからない等の問い合わせを含めた相談や、休日の為、受診せず様子を見ていたが、夜間に症状が悪化したための相談や、相談対応が19時から始まる為、19時を待って診療出来る病院はないか問い合わせるケースもあった。

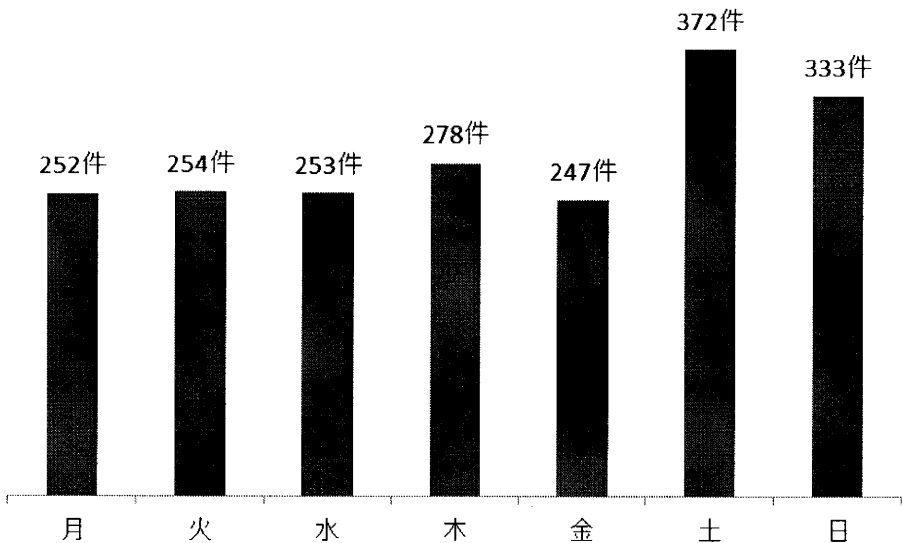
図9 相談件数曜日別

21年度



N=2036

22年度



N=1989

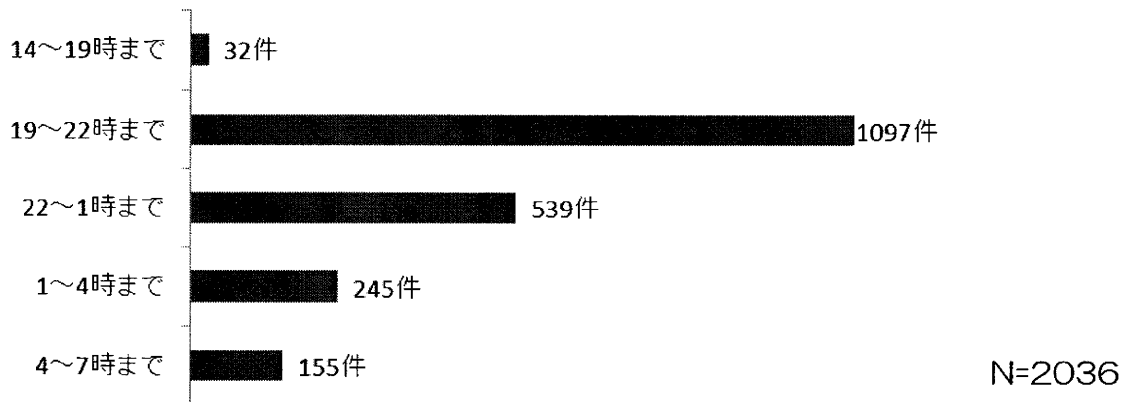
(9) 相談件数の時間別詳細

相談時間は14～19時までの日中対応が17件で1%であり、19時から22時までの間が996件で全体の50%と半数以上を占めている。

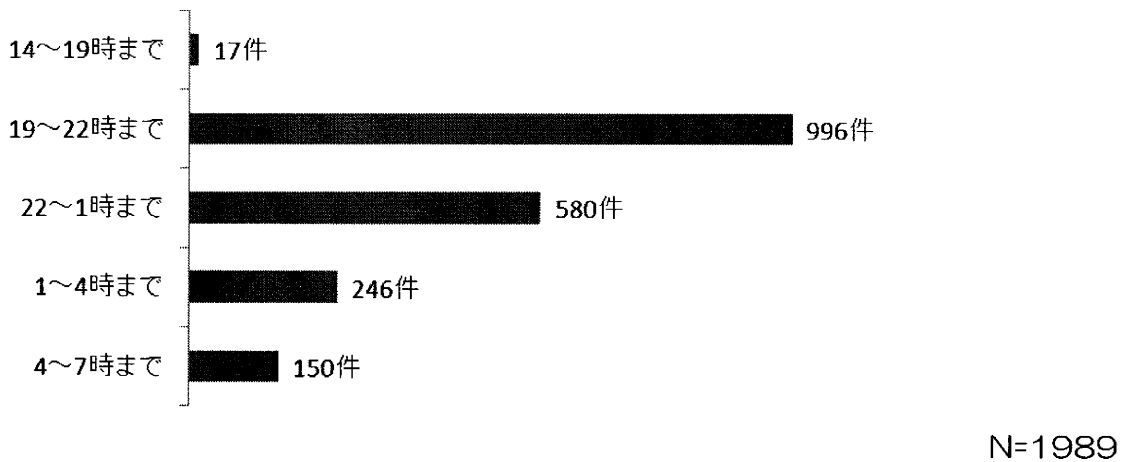
次に22時から1時までの580件29%、1時から4時まで246件13%、4時から7時まで150件7%となっている。(図10)

図10 相談時間

21年度



22年度

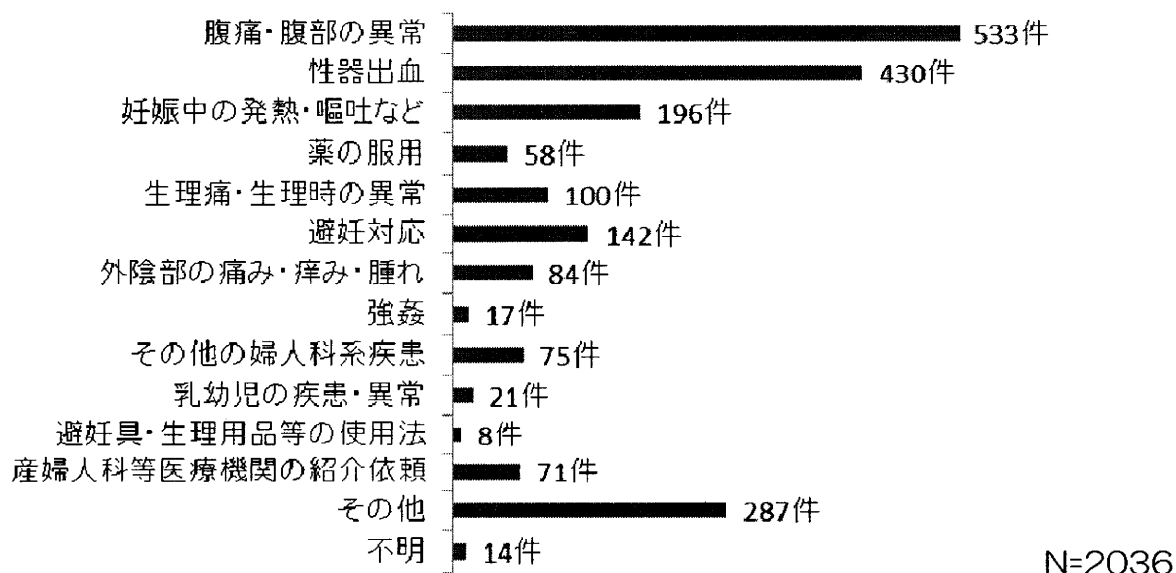


(10) 相談内容

相談内容は昨年同様に腹痛・腹部の異常が最も多く、次に性器出血が多く、この2つの症状が全体の半数を占めている。相談の詳細は下記のとおりである。(図11)

図 11 相談内容

21 年度



22 年度

